

テーマ：子どもの貧困と『ケアする学校』づくり

2024年11月3日（日）、立命館朱雀キャンパスにおいて、2024年度立命館学校教育研究会総会・秋季大会が対面にて開催されました。あわせてZoomでの配信も行いました。校友教員の方をはじめとして、立命館大学の学生や大学院生、教育委員会関係者の方々など幅広い職種・年代の方に対面とオンラインで68名のご参加をいただきました。

総会

総会では、上山義宏会長より本大会開催にあたってのご挨拶のあと、「2024年度立命館大学学校教育研究会運営委員体制」について報告があり、承認されました。続いて川那部隆司副会長より、「2023年度立命館学校教育研究会事業報告ならびに2024年度立命館学校教育研究会事業計画」について報告があり、承認されました。最後に川那部隆司副会長（立命館大学教職教育センター長）から2024年度に実施された教員採用試験の傾向や本学学生の受験結果等について報告がありました。

秋季大会（講演）

総会後に開催された立命館学校教育研究会2024年度秋季大会では、「子どもの貧困と『ケアする学校』づくり」と題して、立命館大学産業社会学部教授の柏木智子先生にご講演をいただきました。

誰もが認められ、他者や社会に対して基本的信頼感をもつことができ、困ったときには必ず誰かが助けられる、自分も社会の中で何かができる、希望を持っていると思える社会を、学校はどう創っていくことができるのかという視点から、貧困をはじめとする様々な困難をかかえる子どもたちへの支援について、理論的にまた実践的に話しいただきました。教師が子どもたちの困り

ごとに気づき、応答するだけでなく、子どもたち同士が互いに関心を持ち、自他のニーズに気づき、応答し合えるような、「ケアする関係性」を学校の中で形成することが、社会の分断を防ぐことにつながる、学校の大きな役割であることを示していただきました。またそのためには、形式的平等観から公正な平等観への転換が必要であることを示されました。



ご講演の後には、質疑応答の時間を経て、対面参加者・オンライン参加者ともに小グループにわかれ、子どもの貧困等、困難を抱える子どもの様子について話し合うとともに、今後教師としてどのような取り組みができそうかについて、授業づくりや学級経営、多職種・多機関等の連携の観点から議論をしました。各小グループからの議論内容の報告の後、柏木先生からコメントをいただきました。

大会終了後の茶話会は、柏木先生にも参加いただき、崎野隆・立命館学校教育研究会顧問のあいさつの後、和やかな雰囲気の中、参加者間で学校や教師の役割についての議論がはずみました。

